

## 京都府立医科大学附属北部医療センター誌 第5巻の発刊にあたって

平成25年4月1日に京都府立医科大学附属北部医療センターとなって6年が過ぎようとしています。

今回、「京都府立医科大学附属北部医療センター誌」第5巻が発刊される運びとなりました。第4巻は特別編として発刊致しましたが、今回の第5巻は通常の内容での発刊となりました。

「京都府立与謝の海病院」が京都府立医科大学の附属病院化されたことにより、京都府北部の医療体制・内容がどのように変わっていくのかが注目されています。そのひとつに、診療・教育に加えて、“大学附属病院としての研究の充実”があります。大学附属病院の教員として重要なことは、自らが学んだことを学会発表や論文として公表していくことです。各部門での体制は不十分な面があり、多忙な日常診療の中で論文を書くことは多大な努力を要しますが、京都府立医科大学の各講座・部門と連携して、北部医療センターの診療および研究内容をより一層充実させ、「京都府立医科大学附属北部医療センター誌」に目に見える形で反映させていきたいと考えております。

第5巻は、総説1編、原著5編、症例報告8編、看護研究1編、研修医振り返り、CPCなど充実した内容となっております。総説は、今年4月から府立医大に戻られる神経内科丹羽文俊先生に「認知症と生活習慣危険因子」について書いて頂きました。原著および症例報告は、いずれも当院で経験されたことに基づいて書かれたものです。原著論文は、抗菌薬の取り組み（石野医長）、肝硬変の治療（石破副医長）、経皮的心肺補助装置の導入（谷口医長）、生き生き長寿研究（丹羽医長）、90歳以上の大腿骨近位部骨折の研究（吉田医長）といずれも当院の特色を出している内容となっております。症例報告も充実していますが、研修医の症例報告が1例だけなのが少し寂しい印象がします。

看護研究は「小児の救急受診」に関する研究内容（古橋看護師）です。看護実践報告は人工呼吸器装着患者を通じた不安を成功体験に変える取り組み（武元看護師）の報告です。

初期研修医の当院での研修医生活の振り返りも楽しみです。

最後になりましたが、ご執筆頂いた皆様、ご多忙な中、第5巻の発行に向けご尽力頂いた編集委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成31年3月

附属北部医療センター 病院長 中川正法